

平成 20 年度総会開催！ 新たな活動の展開に意欲！

■平成 19 年度 総会報告

青年技術士交流委員会では、5月21日(水)に「きょうさいサロン」において、平成20年度総会と春期研修会・懇親会を開催しました。その概要についてご報告します。(総会・講演会への参加者37名)

総会に先立ち、丹治委員長より、今後の活動に際しての抱負等が述べられました。



写真－1 丹治委員長

1) 平成 19 年度活動報告・会計報告

平成19年度活動報告について、第10期の活動の柱として掲げていた“テクニカルスクール”、“北の技術講演会”の開催結果や、全国および日韓青年技術士との交流事業への参加報告が行われました。

あわせて、平成18年度決算報告が行われ、以上の活動報告、決算報告について、会場出席者の過半数の承認が得られました。

なお、当委員会では、メーリングリスト EPO を平成10年より運営しています。入退会される方の登録処理は、担当幹事の大きな負担（実はたった1人で対応！）になっていますが、登録者数約560名のみなさんのお役に立てるよう、引き続き運営していきたいと考えています。

表－1 平成 19 年度活動内容

日 時	活 動 内 容	参加 (人)
H19/5/21	平成19年度総会北海道の技術・講演会「泥炭地盤との戦い」 初代青年技術士協議会会長 能登繁幸氏（㈱開発工営社 顧問）	54
H19/7/27	北海道の技術・講演会 ①「JR 北海道の経営概要と冬期における当社独自の取り組みについて」 北海道旅客鉄道株式会社経営企画部主幹 小澤直正氏 ②「デュアル・モード・ビークル（DMV）の開発と今後の展望」 北海道旅客鉄道株式会社技術創造部長 佐藤巖氏	38
H19/10/03	テクニカルスクール講座「会議の場のデザイン」北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット 特任准教授 三上直之 氏	19
H19/10/16 ～19	第34回技術士全国大会（北陸大会）：青年技術士交流実行委員会事業への参加	5
H19/9/30 ～10/1	第37回日韓技術士会議：青年技術士交流実行委員会事業への参加	1
H19/11/20	北海道の技術・講演会 ①「北の新エネルギーの現状と今後の展開方策」北海道大学大学院農学研究院教授 松田從三 氏、 ②「北海道における新エネルギーへの取り組みについて」北電総合設計株式会社環境部 船越元氏	58
H19/2/28	北海道の技術・講演会 ①「北海道米の品種改良等に関する話題」北海道立中央農業試験場岩見沢試験地 水田転作科長 田中一生氏、②「米の流通に関する話題」株式会社久保商店代表取締役社長 久保元宏氏	32
H20/4/17	テクニカルスクール講座「合意形成の技法—公共的事業におけるファシリテーションとは—」 NPO・PI-Forum 篠田さやか（オフィス Cua）氏	30

2) 平成 20 年度活動計画

平成 20 年度の研修会については、「技術力の向上」をテーマとした「テクニカルスクール」講座と、「北海道の技術」をテーマとした講演会をそれぞれ 2 回程度開催予定です。

また、新たな試みとして、次世代を担う理系学生の将来へのモチベーションを高め、技術士の社会的な認知度の向上にも資することを目的として、中堅世代である我々青年技術士が学生等と直接対話する場を設ける新企画「(仮題) 大学生や高校生に技術者の仕事の面白さを伝えに行こう！」を試行する予定です。

第 35 回技術士全国大会および第 37 回日韓技術士会議における青年技術士交流実行委員会主催事業への参加による交流活動も継続していく予定です。

なお、活動の詳細については、今後、随時、本誌および(株)日本技術士会北海道支部ホームページ、EPO (エンジニア・パーク・オンライン) においてご案内させていただく予定です。

■春期研修会

今回の北の技術講演会は、「儲かる・知的財産権」題して、(株)発明協会北海道支部専務理事の堀川代志郎氏に御講演いただきました。

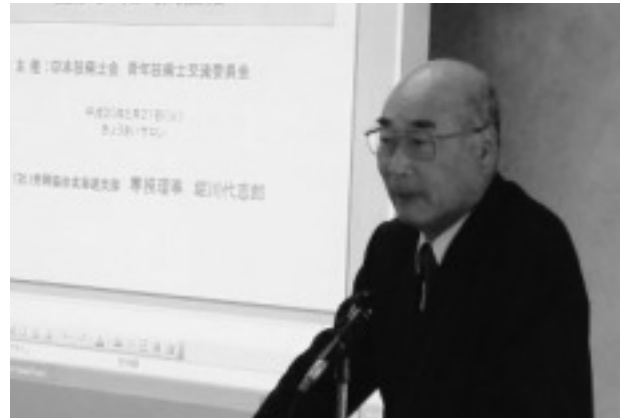
堀川さんは三菱自動車関連会社である北海道車体工業(株)、(株)パプコ北海道で 30 年間新製品・技術開発に取り組み独自の経営戦略で同社を全国グループ No.1 企業に育てました。

現在発明協会専務に就任し、豊富な人脈で知的財産権の普及啓発に取り組んでおられます。

【講演要旨】

◆技術を守るべき

日本の技術は中小企業に支えられてきたが、その中小企業の経営者の年齢は全国平均で 57 歳、北海道では 59 歳 (2006. 帝国データバンクより) と高齢化している。



写真－2 講演される堀川氏

日本の技術力を維持するためには、次世代経営者へ技術力を伝えていく必要がある。研究成果や技術は、見て盗む、秘伝のノウハウで継承するものと「特許で守る」ものがある。

最近技術が軽く見られている傾向にあり、せっかく技術士を取得しても技術から離れていく人が多いのではないだろうか。会社の体質悪化として、スタッフが強くなると会社が悪くなりがちであるから、技術者はもう少し大きな声で自信を持って技術力を強化・発揮すべきである。

◆少年少女の発明サポートの強化すべき

少年少女向けの発明サポートは全国的に増加傾向にあるが、北海道は資金難や人材不足によってほとんど増加していない。むしろ教育委員会の支援打ち切りによって少年少女発明クラブなどが平成 4 年から比較すると半分から 1/3 までに減少している。

◆北海道の発明技術は悪くない！

産業財産権の活用企業百選では、北海道の企業が全国 100 社中 10 社と 10% を占めていることや、第二回ものづくり日本大賞では、北海道の企業が全国 100 社中 11 社も選ばれている。

◆出願手続きは楽になった

特許の出願は、多くの場合縦割り行政であることが原因で非常に申請が面倒だった。2005 年 (平成 17 年) 7 月に、北海道知的財産情報センターが北海道知的財産戦略本部内に設立し、縦割りだった申請を

一括化、特許の申請がしやすくなった。

表－２ 産業財産権の活用企業百選

企 業 名	自治体	商 品
(株)アミノアップ化学	札 幌 市	サプリメント
石屋製菓(株)	札 幌 市	白い恋人
寿産業(株)	札 幌 市	溶けた鉄を受ける ローラーガイド
(株)サークル鉄工	滝 川 市	苗の移植機
(株)東和電機製作所	函 館 市	イカ釣り機
日農機製工(株)	足 寄 市	草取り機
(株)ニッコー	釧 路 市	三枚おろし機
(株)光合金製作所	小 樽 市	水道栓、水抜き
(株)富士食品	富良野市	なっとう
夕張市農業協同組合	夕 張 市	メロン

※ 10/100…10%が北海道！

表－３ 第二回ものづくり日本大賞

企 業 名	自治体	商 品
経済産業大臣賞		
NPO 北海道職人義塾 大学校	小 樽 市	お祝紐、大漁旗
優秀賞		
(株)協和機械製作所	札 幌 市	高速除雪機
正和電工(株)	旭 川 市	バイオトイレ
北見木材(株)	遠 軽 町	ピアノ板
(株)いたがき	赤 平 町	鞆
(株)フジワラ	北 斗 市	おもり
井原水産(株)	留 萌 市	コラーゲン
(株)電制	札 幌 市	声を出す機械
日農機制工(株)	足 寄 市	草取り機
(株)サークル鉄工	滝 川 市	草取り機
北原電牧(株)	札 幌 市	牧冊、自動給餌機

※ 11/100…11%が北海道！※講演資料より引用

◆儲かる知的財産権

知的財産権は、取得するのが目的ではなく、取得することで商品の開発・生産・販売が有利になるようにサポートすることが本質である。



写真－３ 会場の様子

【感想】

私は、技術開発といえばシャープを思い出します。

1912 年 資本金 50 円従業員 3 名で創業

1915 年 シャープペンシルが欧米で大ヒット

1925 年 国産ラジオ第一号

1929 年 真空管ラジオ発売

1953 年 国産第一号テレビ

1964 年 世界初電卓

1973 年 世界初液晶電卓

1989 年 省電力コードレス留守番電話機

1993 年 ザウルス

1999 年 大画面液晶テレビ

1999 年 カメラ付き携帯電話

2000 年 折りたたみ方式携帯電話

2001 年 AQUOS

と、次から次へと発明しております。シャープ創業者の経営哲学が「まねされる商品をつくれ」ですから驚きます。

堀川講師によると、北海道の産業財産権も悪くないとのことですから、やはり焦点になるのは、ここでも次世代の技術者育成になってしまうのかなと感じました。

(文責：青年技術士協議会 米川 康)

■懇親会

総会・講演会後に行われた懇親会は平成 20 年度技術士合格者の新入会員 2 名を含めた合計 20 人で行われました。

新入会員が少なかったこともあり、幹事を除く参加者のみなさまから自己紹介や抱負等を語っていただき、終始和やかな会となりました。



写真－4 意見交換会の様子

■おわりに

今年は例年になく参加者が少ない総会・懇親会となっていました。特に新入会員の参加については2名にとどまり、多くの青年技術士の交流の場を掲げる当委員会としては、寂しいかぎりです。

今後の案内や呼びかけのあり方について、改めて考える必要があるかもしれません。

いずれにせよ、今期は我々青年技術士が担うべき社会的な役割とその可能性を広げるため、これまでの研修会とは一線を画す、新たな取り組みにチャレンジする予定です。

今後とも（青年）技術士の皆さまの温かいご支援をお願いいたします。また、青年技術士の皆様におかれましては、積極的に青年技術士交流委員会の活動に参加していただければ幸いです。

（文責：青年技術士交流委員会 奈良 照一）

表－5 平成 20 年度活動計画（案）

日 時	活動内容（案）
H20.05.21	平成 19 年度総会・春期研修会 第 1 回研修会
H20.07	第 2 回研修会
H20.09	第 3 回研修会
H20.10	技術士の社会認知向上・理科系教育現場における支援事業の試行
H20.10	全国支部との交流活動事業
H20.11	第 4 回研修会
—	メーリングリスト EPO の運営

表－6 第 10 期青年技術士交流委員会体制

委員長	丹治 和博（総監／建設）
副委員長	谷村 昌史（建設／総監）、天沼 宇雄（建設／総監）、松澤 勝（建設）、樋詰 透（建設）
幹事長	奈良 照一（総監／建設）
幹事	服部 唯之（建設）、米川 康（応用理学）、小澤 直正（建設）、林 英雄（農業）、原田 哲郎（上下水道）、井上 涼子（建設）、大槻 政哉（建設）、田中 真也（農業）、岡 宣克（建設）、小山田 応一（情報工学）、西村 一郎（上下水道）、川島 由載（総監／建設）、川村 力（建設）、永井登茂美（建設）、永田 泰浩（建設）、滝澤 嘉史（建設）、福岡 博史（総監／建設／環境）、佐光 正和（建設）、山本 太郎（総監／建設）、田中 雄太（総監／建設）、長谷川圭一（建設）、川島 由載（総監／建設）

EPO（エンジニア・パーク・オンライン）

青年技術士交流委員会（旧青技協）では、日本技術士会北海道支部の会員、準会員、賛助会員の方全てを対象として、メーリングリスト EPO を 1998 年（平成 10 年）から開設しています。

登録を希望される方は、①氏名、②所属、③日本技術士会北海道支部の会員・準会員・賛助会員の該当、④そのほか（自己紹介や抱負等）をお書きの上、メーリングリスト登録希望の旨を記入して、以下のメールアドレスまで e メールをお送り下さい。

なお、メーリングリストとは、メールを登録会員全員に同報配信する仕組みで、EPO は「特定のことがらに詳しい人を探したり」、「講習会や行事等の案内」、「会員相互の様々な情報交換」などに活用されています。平成 19 年 5 月末現在で約 560 名の方が加入されています。

（EPO 登録申し込みアドレス）

seigikyo@ipej-hokkaido.jp